

なよろ



名寄市観光キャラクター
「なよろう」



目次

○ 定例会で決まったこと	2
○ 議決結果・意見書	3
○ 一般質問に12人	4～9
○ 決算審査特別委員会の概要・総括質疑	10～11
○ 各常任委員会&議会運営委員会活動報告	12～15
○ きぼう・編集後記	16

令和2年
第3回定例会
第58号
令和2年11月1日
発行

令和2年 第3回定例会 8月31日～9月28日

名寄市税条例の一部改正、新型コロナウイルス対策・危険家屋等除去補助金などを含む一般会計補正予算などを原案可決

令和2年第3回定例会は、8月31日～9月28日までの29日間で開会。開会初日には、加藤市長が行政報告で「南保育所などの整備に係る基本設計に取り掛かる」などと述べられました。議案審議では、条例案3件、決算の認定10件、補正予算案7件、財産の取得など2件を原案のとおり可決・認定しました。一般質問では16日から18までの3日間で、12名の議員が市政全般について質問を行いました。また令和2年7月豪雨による多くの犠牲者に対し、議場で黙とうをささげるとともに、議長、市長からお見舞いの言葉を申し上げました。

条例の改正

☆**名寄市税条例の一部改正について**

鉱泉浴場のある市町村は、入湯客に入湯税を課するものと地方税法に規定されているため、条例の一部を改正しました。

なお入湯税の税率は、一人一泊につき150円で、来年4月から徴収しますが、小学生以下や日帰り入浴の方は、課税を免除します。

主な補正予算

☆**空家等対策事業費**

市民生活に危険を及ぼす空家を除却することにより、近

隣住民の生活環境の保全を図るため80万円を追加しました。

☆**なよろ温泉整備事業費**

受動喫煙対策として、なよろ温泉サンピラー館内に喫煙室の設置や更衣室の移設などをしたため324万3千円を追加しました。

☆**市道除雪・排雪対策事業費**

北海道の労務単価の増に伴い、市道除雪などの委託料が増額するとともに、北海道が使用していた除雪ロータリー車を購入するため269万7千円を追加しました。

☆**上川北部消防事務組合負担金**

新型コロナウイルスの感染

が疑われる場合の心肺蘇生に対応すべく、自動心臓マッサージ器を導入するため58万2千4百円を追加しました。

☆**小学校教育振興事業費**

☆**中学校教育振興事業費**

市内小中学校の修学旅行、宿泊研修で、新型コロナウイルス感染症対策として実施する、バスの増便などに係る経費を補助するため、合計30万9千円を追加しました。

☆**遠隔授業環境等強化事業費**

新型コロナウイルス感染症対策として、遠隔授業の環境を充実させるため、インターネット環境の強化、学生貸出用端末の整備などに係る経費128万6千円を追加しました。

☆**光ファイバ整備事業費**

民間事業者が市内の光ファイバ未整備地域に光ファイバを整備し、それに対して市が負担金を支払うため、5億8千40万9千円を追加しました。

☆**児童福祉施設等従事者慰労金支給事業費**

新型コロナウイルス感染拡大防止のための緊急事態宣言下で、児童の保育などを継続的に担い、社会機能の維持に不可欠な役割を担っていた、いた幼稚園、保育所、認定こども園、放課後児童クラブなどに勤務していた方に対し、一人5万円の慰労金を支給す

るため、1500万円を追加しました。

☆**医療介護連携情報共有ICT事業費**

市内の医療機関、介護事業者、調剤薬局などがICTを活用し、情報を共有することで、関係機関が連携し、より質の高い医療と介護サービスの提供体制を構築するため、539万9千5百円を追加しました。

☆**病院事業会計繰出金**

市立総合病院で、新型コロナウイルス感染症対策として実施する、非対面型診療と入院患者面会システムの構築に掛かる経費のうち、国などの補助で賄えない部分に対し、繰り出しを行うため、2500万円を追加しました。

財産の取得

「GIGAスクール構想」を実現するため、約6466万円分の学習用端末を取得し、全児童生徒に一人一台の端末を整備します。

臨時会を開きました

令和2年第2回臨時会が8月7日に開催され、名寄市過疎地域自立促進市町村計画の変更など、3件の議案について審議し、原案のとおり可決しました。

令和2年 第2回臨時会議決結果

議案番号	件名	結果
議案第1号	名寄市過疎地域自立促進市町村計画の変更について	原案可決
議案第2号	令和2年度名寄市一般会計補正予算(第6号)	原案可決
議案第3号	令和2年度名寄市介護保険特別会計補正予算(第2号)	原案可決

令和2年 第3回定例会議決結果

議案番号	件名	結果
議案第1号	名寄市職員の特殊勤務手当に関する条例の一部改正について	原案可決
議案第2号	名寄市手数料徴収条例の一部改正について	原案可決
議案第3号	北海道市町村職員退職手当組合理約の変更について	原案可決
議案第4号	令和2年度名寄市一般会計補正予算(第7号)	原案可決
議案第5号	令和2年度名寄市介護保険特別会計補正予算(第3号)	原案可決
議案第6号	令和2年度名寄市立大学特別会計補正予算(第2号)	原案可決
議案第7号	令和2年度名寄市下水道事業会計補正予算(第1号)	原案可決
議案第8号	令和元年度名寄市一般会計決算の認定について	認定
議案第9号	令和元年度名寄市国民健康保険特別会計決算の認定について	認定
議案第10号	令和元年度名寄市介護保険特別会計決算の認定について	認定
議案第11号	令和元年度名寄市下水道事業特別会計決算の認定について	認定
議案第12号	令和元年度名寄市個別排水処理施設整備事業特別会計決算の認定について	認定
議案第13号	令和元年度名寄市食肉センター事業特別会計決算の認定について	認定
議案第14号	令和元年度名寄市後期高齢者医療特別会計決算の認定について	認定
議案第15号	令和元年度名寄市立大学特別会計決算の認定について	認定
議案第16号	令和元年度名寄市病院事業会計決算の認定について	認定
議案第17号	令和元年度名寄市水道事業会計決算の認定について	認定
議案第18号	名寄市税条例の一部改正について	原案可決
議案第19号	財産の取得について	原案可決
議案第20号	令和2年度名寄市一般会計補正予算(第8号)	原案可決
議案第21号	令和2年度名寄市国民健康保険特別会計補正予算(第2号)	原案可決
議案第22号	令和2年度名寄市病院事業会計補正予算(第1号)	原案可決

《賛否の分かれた議案》

※○(賛成) ×(反対) 欠(欠席) 退(退席)

議案番号	件名	議員名	市民ネット					市政クラブ					議公共							
			富岡達彦	倉澤宏	山崎真由美	佐久間誠	佐藤靖	高野美枝子	三浦勝秀	今村芳彦	五十嵐千絵	遠藤隆男	清水一夫	塩田昌彦	東川孝義	山田典幸	黒井徹	東千春	高橋伸典	川村幸栄
議案第8号	令和元年度名寄市一般会計決算の認定について		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
議案第9号	令和元年度名寄市国民健康保険特別会計決算の認定について		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×

※公(公明) 共(日本共産党) 議(議長) ※議長は表決に加わりません。

第3回定例会で次の意見書を提出することに決定しました。

- ◎林業・木材産業の持続可能な発展に向けた施策の充実・強化を求める意見書
- ◎新型コロナウイルス感染症の影響に伴う地方財政の急激な悪化に対し地方税財源の確保を求める意見書
- ◎新型コロナウイルス感染症対策の強化を求める意見書
- ◎種苗法の改正に関する意見書
- ◎防災・減災、国土強靱化に資する道路の整備等に関する意見書
- ◎臨時国会の早期召集を求める意見書
- ◎被災者生活再建支援法の改正を求める意見書



安全安心なまちづくりを

市政クラブ 東川孝義 議員

問 医療体制のさらなる充実を

新名寄市病院事業改革プランの最終年度を迎え、経営効率化の目標と地域包括ケアシステムの評価は。名寄と士別での医療連携推進機構の進捗経過と当面の事業計画は。

答 改革プランは、まだ外部評価の結果を得ていないが、経営指標や経営形態の見直し目標は達成しており、地域医療構想を踏まえた役割も、地域医療連携の充実や名寄市立大学との連携で評価を得られると考えている。上川北部医療連携推進機構は、9月1日付で知事の認可があり、事前の計画書では、診療機能の集約化や両病院の効率的な収益改善の取り組みを行う。

問 持続可能な除排雪体制を

除排雪体制の継続的な確保に向けて、ここ数年の委託費の実績は。国及び道は近年除雪体制の維持確保のため、委託経費を実態に即した算定

に見直す動きが出ているが、名寄市の考え方は。

答 昨シーズンの委託費は、3億8700万円、近年で降雪の多かった29年度との比較では9100万円少なくなっている。除雪費・排雪費は名寄市独自の設計であるが、積込運搬費は道の設計に準じている。労務単価や機械損料、燃料単価などについては、道とほぼ同じ単価である。また除雪費用の上下限の率に対する設計変更の定義についても、除排雪業者の意見も伺い、検討を行う。

問 災害廃棄物の処理計画は

災害復興に欠かせないものである。地域防災計画や北海道災害廃棄物処理計画を踏まえ、本市における災害廃棄物処理計画の策定についての考えは。

答 被害が発生してからでは遅い。本市としても災害廃棄物処理計画の必要性は、十分認識しており、計画策定に向けて情報収集に努めている。ごみの広域処理を行なっている構成自治体とも議論を深め、早急に計画づくりを進める。

問 地域医療の充実について

季節的にインフルエンザの流行も危惧される中、新型コロナウイルス感染症拡大予防に対応した発熱外来や、救急外来など、医療環境の整備は。できるだけ発熱患者の動線を一般患者と分離することを前提に、感染症病棟と救急棟を活用する。また屋外にプ

憂いをなくす備えを

市民ネット 山崎真由美 議員

レハブやバスなどを配備し、待合や検体採取に活用することも検討している。

問 コロナ対応もある中での医療従事者のメンタルケアは。

答 感染症対応スタッフのメンタルケアは大変重要である。法定のストレスチェックを中心に対応しているが、今後は必要に応じ、相談体制の充実に配慮していく。

他の質問 コロナ禍における災害避難対応について、安心できる子育て環境の充実について



安定した除排雪体制維持に向けて、適正な委託費用を



大きな役割を担う名寄市立総合病院

一般質問

質問・答弁の原稿は質問者本人がまとめたものです



安心して暮らせるまちづくり

市政クラブ 遠藤 隆男 議員

名寄市の防災について

問 洪水ハザードマップの市民への周知および防災意識向上施策について伺う。

答 本市には大小合わせて多くの川が流れているとともに、天塩川と名寄川の合流地点でもあり、水害の危険性は非常に高く、浸水想定についても危機感を感じている。現在のハザードマップについては、作成以降、防災訓練、防災セミナー、町内会や各団体などへの出前講座で継続的に周知をしている。また日常から防災意識の向上につながるよう、街なかをハザードマップに見立てる「まるごとまちごとハザードマップ」の取り組みを進めている。

問 コロナ禍における避難所の在り方について伺う。

答 職員を対象としたコロナ禍における避難所のレイアウト研究、検証、研修会により、発熱症状がある避難者の区分

身体的距離を考慮した避難所レイアウト、職員の人員配置などに対し、共通認識を深めている。これまでの避難所とは大きく異なることから、安心して避難ができるよう、今後も災害対策と合わせ、感染症対策、避難所運営能力の向上に向けた取り組みをしていく。

他の質問 自主防災組織設立施策、小中学校の防災教育、福祉避難所、ペット対応避難所、防災情報配信システム



防災意識の向上、安全・安心なまちづくりに繋がる取り組みを



まちづくりの将来構想を問う

市民ネット 佐久間 誠 議員

中心市街地の活性化を

問 商工会議所で設立準備を進めている「まちづくり会社」と行政は、どのように連携していくか伺う。

答 会議所で8月に「官民連携に向けた特別委員会」を設置し10月末をめどにまちづくり会社の設立に向けた議論が進められており、市も民間の動きに期待している。情報交換を行い連携して参りたい。

問 民間の動きに応え、すり合わせ、行政としての指針を具体化すべきではないか。

答 副市長を先頭に市内検討組織を設置し、老朽化施設の再配置・複合化など、公共施設の在り方を検討している。中心市街地活性化を含め、より広い視点で議論する。

縦貫自動車道周辺整備は

問 高規格道路整備の進捗状況及び期成会の取組状況について伺う。

答 士別剣淵ICから名寄I



将来の周辺開発に可能性を秘める高規格道路名寄インターチェンジ

Cまで24kmの整備について、用地取得進捗率89%、全体事業進捗率が76%で、本年度の予算規模は20億円となっている。期成会の取り組みは予算確保など、さまざまに要望を掲げ、国、道内選出国会議員へ要望活動を行っている。

問 名寄インターチェンジ乗降口周辺に「道の駅」などを整備し、高規格道路から市内へと誘導する拠点とする考えはないか伺う。

答 大きな可能性を秘めており、名寄の立地の特性などをもとに検討していく。

他の質問

コロナ感染症対策



子育ての負担を少しでも軽く

市政クラブ 五十嵐 千 絵 議員

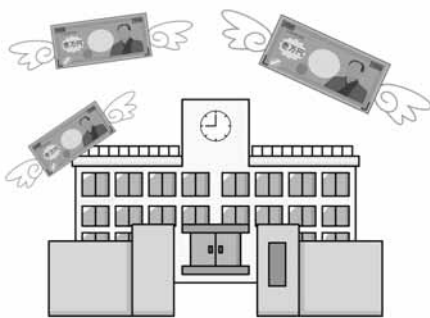
問 学習にかかわる費用について

答 義務教育に係る保護者負担の考え方について伺う。

答 給食費を除いた負担額の年平均は小学校で2万8539円、中学校で8万4485円となる。公費負担分としては、授業料と教科用図書が該当となり、それ以外は保護者負担となっているのが現状。

問 スキー授業の準備に際し、保護者にとつてスキー用具一式を用意することは大きな負担となる。物を大事にするという観点からも、リユースに対する市の考え方と取り組みについて伺う。

答 教育委員会ではスキー授業を推進するため、スキー場までのスクールバスや貸し切りバスの運行、スキー用具の運搬費やリフトの利用料金を負担するなどの対応をしている。これまで風連町スキー協会が中心となり、譲渡会を実施していたが、同協会が解散



子どもの成長とともに増える教育費用

したことにより、平成29年度を最後にこの取り組みは中止となっている。今後リユースの取り組みを実施しようとする団体がいた場合などには、教育委員会としても協力していきたい。

他の質問 労働の場における男女平等の推進の評価と課題について、名寄市特定事業主行動計画（第2期）の評価について

市内経済の下支えを



さらなる取り組み必要

市民ネット 佐藤 靖 議員

問 今年2月以降、市内経済に打撃を与えている新型コロナウイルズ。市も事業継続支援給付金、がんばる中小企業応援給付金を創設したが、どの程度の給付となったのか。

答 市内経済は回復したのか。コロナ禍が長引けば年越しがでない、来年の見通しが立たない事業所も出る懸念もある。もつと積極的な対応が必要。

答 支援給付金は対象事業所の79・3%が申請し、うち84・5%が応援給付金を受けており、この間、給付事業者の倒産、廃業はなく、一定の効果があつたと認識している。今後も適切に対応する。

組織、施設の見直しを

問 コロナ禍の影響を受ける市内経済の再興、名寄振興公社の再建、さらには王子マテリア(株)名寄工場の生産品集約などの課題を抱える産業振興室をはじめ、諸課題に対応で



以前は多くの子供たちが訪れた名寄公園の遊具だったが…

きる組織の見直し。当初の公園施設長寿命化計画が間もなく終了となるが、名寄公園や浅江島公園の老朽化などが激しい。早急に対応すべき。

答 噴水やほかの老朽施設については、全体をふかんして進めたい。水飲み場は予算の範囲内で適切に対応する。浅江島公園内のサンピラー館については、取り壊しを含め施設の方向性を検討する。

一般質問

質問・答弁の原稿は質問者本人がまとめたものです



新しい成人式の在り方

市政クラブ 塩田昌彦 議員

問 成年年齢の改正で成人式は

民法の一部改正に伴い、成年年齢が18歳に引き下げられるが、成人式の時期や在り方についての考えは。

の方向性を決定していく。

問 中心市街地からの情報発信は

答 デジタル広告塔の活用は、名寄市開拓100周年を記念して設置し、現在はなよろまちづくり観光協会に運用を委託している。開拓100周年の重みと、名寄駅前はその市の玄関口であることを踏まえ、駅前交流プラザ「よろいな」と併せた情報発信を観光協会や冬季スポーツの拠点化を担うNスポーツコミッションなどと連携し、検討する。

他の質問 名風聖苑の衛生設備について、新型コロナウイルス感染症予防対策の現状について

問 脱原発と核ごみ問題について

答 非核平和都市宣言名寄市として、脱原発に対する基本的認識と考え方について伺う。

問 幌延深地層研究計画の期間延長に対する名寄市の考え方について伺う。

答 三者協定を遵守した上で、十分な議論と情報公開がされるべきと考えます。

問 寿都町および神恵内村が検討している「高レベル核廃棄物の最終処分場選定に係る文献調査への応募」について名寄市の考え方を伺う。

答 名寄市には北海道の「特定放射性廃棄物に関する条例」に類似する条例はないが、名寄市としては、処分場を誘致する考えはない。



未来を見据えて考える課題

市民ネット 富岡達彦 議員

問 宗谷本線維持存続について

答 沿線市町村の意見交換の詳細と、今後の活性化推進協議会の取り組みについて伺う。

問 持続的な鉄道網の確立とJR北海道の経営自立に向けた要請に、国交大臣が「政治的課題」であると回答したことは大きい。引き続き地域振興に資する取り組みを進める。

問 駅カード発行について、昨年の課題に対する改善策は。

答 有人駅での窓口配布にし、利用促進と誘客促進に努める。

他の質問 新型コロナウイルス感染症に関する人権への配慮について



成人式の時期や在り方は



地球は子々孫々からの預かりものです



補助事業の考え方について

市政クラブ 三浦勝秀 議員

補助対象経費の考え方を伺う

問 中小企業支援策の一部が拡充・緩和されている。この中で、撤去や産廃処理の経費と外構工事や外壁工事が補助対象外となっている理由は。

答 支援メニューについては、名寄市商工業基本計画の策定に向けた検討部会で見直すが、補助対象経費の考え方も議論し、より良い支援メニューを検討する。

大学生の雇用と定着について

問 学生求職動向調査における調査結果の分析と対応、市内の各企業・病院・各種施設からの学生への求人について伺う。

答 保健福祉学部3年生を対象にした調査で、回答数は166名で市内就職が第一希望の学生は6・6%となった。市内への就職状況として令和元年度は19名となっており、毎年一定程度の就職数があることから、就職説明会、経済

的支援を行う助成制度が成果を上げていると考える。

地域への愛着の醸成について

問 地域産業の特性や地元企業に対する理解の促進を目的とした取り組みについて市の見解を伺う。

答 大学は、地域社会と地域産業活性化への貢献や人口流出阻止という役割が期待されている。大学では授業や実習を通じて、農業者や小学校、病院、福祉施設などの協力により、地域の実情に触れる機会を設けている。



まちづくりの推進に向けて



経済基盤の安定を目指して

市政クラブ 今村芳彦 議員

安定的な農業経営へ向けて

新規就農者への支援は。

問 今年度の農業次世代人材投資資金は市内6件が交付対象となっており、経営安定に向けて効果的な制度であると認識している。しかし所得が年間制限額を超えたり、適切な農業経営が行われないなどの場合、交付停止の措置が講じられることもある。

問 交付期間終了後のサポート体制は。

答 農業者の主體的な計画を基本としながら、関係機関による新規就農者支援チームを中心、栽培や経営面での課題整理など、専門的かつ幅広い相談・助言を行うとともに、地域における協力・支援もお願いしたい。

恒久的な除排雪体制の維持へ

問 除排雪車両の高年式化が問題となっているが、対策は。

答 問題として認識している。機械力の増強を図るべく、機械の更新や払い下げによる機械の導入など、計画的に更新していけるよう努めたい。

問 アクションプランを策定



ひとびとの暮らしを守る除排雪作業の恒久化を求めて

し、市民理解を深める取り組みを行っては。

答 本市は毎年度、国・北海道をはじめ、各関係機関や町内会連合会、請負業者などが参加する「除排雪対策打ち合わせ会議」を開催しており、その年度の除排雪実施に係る計画の説明や意見交換を行っている。

新たに除排雪業務に関するアクションプランの策定は考えていないが、先の打ち合わせ会議などにおいて情報共有を図り、持続可能な除排雪業務の継続へご理解いただけるよう努めたい。

他の質問 農地の流動化対策について、除排雪オペレーター

一般質問

質問・答弁の原稿は質問者本人がまとめたものです



新しい生活様式への対応は

公明 高橋伸典 議員

問 GIGAスクール構想の実現

教育分野において三密を
を防ぎながら、切れ目のない
学習環境の提供は重要。オン
ライン学習の端末機器の整備
など、GIGAスクール構想
関連事業との連携と児童生
徒・学生や教員が学校・自宅
で使うICT環境の整備は急
務であるが、進捗状況は。

答 コロナ禍の影響もあり、
緊急時において、すべての子
どもたちの学びを保障できる
環境づくりを早急に実現する
ことを目指し、ICT教育環
境の整備を進める。児童一人
1台端末の整備は令和3年2
月までに行い、校内通信環境
の整備は冬休みや放課後に行
う予定である。

移住・企業誘致の推進を

問 ※デジタルトランスフォー
メーションの推進により、地
域の価値を高めることで、移
住や企業誘致を推進できると
考える。医療や住まい、交通

アクセスを整えるとともに、
空き家を活用したワーキン
グスペースの整備や住宅を整
備し、誰もが住み続けられる
まちづくりを実現すべきでは
ない。

答 人口減少・人材不足など、
ICTの推進は、問題解決の
一つ的手段で、市民生活を豊
かにする手段ともなる。本市
も光ファイバの敷設に取り組
むことになり、先進事例など
の情報収集に努め、民間との
連携も重視し、移住や企業誘
致へ取り組む。

他の質問 新型コロナウイル
スの散発的な流行に備えた対
策



三密を避け、年度内に一人1台を



コロナ感染拡大対策について

日本共産党 川村幸栄 議員

PCR検査の実施について

問 感染経路不明者が増えて
いる。感染拡大を抑え、安全
・安心の社会基盤を作るとい
う「防疫」を目的にPCR検
査の実施を求める専門家が多
い。病院、学校、高齢者施設
等での実施が必要と考えるが。

答 今回の新型コロナウイルス
感染症は、法律に定める感
染症で、その対策は国・都道
府県が担うことが大前提。

問 名寄市内の検査能力は。
答 一日最大100件の検査
が可能であるが、検査試薬が
不十分のため最大限実施でき
る状況にない。

子どもたちの心のケアを

問 国立成育医療研究セン
ターのアンケートで、コロナ
禍で約7割の子どもたちが不
調を訴えているという。名寄
の子どもたちの現況は。

答 感染症を正しく理解でき
るよう指導。さらに感染者な
どへの偏見や差別につながる

行為は、断じて許されるもの
ではないことを指導。児童生
徒の心身の不調が見られた場
合は、教育相談を行ったり保
護者と連携を図り、学校全体
で相談できる体制を作ってい
る。

問 コロナ対策等での教職員
の負担軽減のため、教職員等
の増員の考えは。

答 道の負担で、学習指導員
やスクールサポート・スタッ
フ配置事業に取り組み、小・
中学校8校が派遣申請し決定。
他の質問 「2040構想」に
ついて



楽しそうに工作を楽しむ児童センターの子どもたち

※デジタルトランスフォーメーション：デジタルによる変革

令和元年度決算審査特別委員会

令和元年度の決算を認定

第3回定例会において、令和元年度の各会計決算について、全議員で構成する決算審査特別委員会を設置し、内容を審査しました。

第1回委員会を8月31日に開催し、委員長に東川孝義委員、副委員長に山崎真由美委員を選出しました。

第2回目以降は、9月23日から25日、28日の4日間の実質審議に入り、各会派の代表による総括質疑および委員による質疑が行われ、ふるさと納税、総合福祉センターの管理運営、名寄振興公社、農業・観光に関する施策、教育、市立大学に関することや病院事業など、多岐にわたる案件について、事業の成果や今後の展望、市民生活の向上に向けた事業の継続や改善を求めするなど、議会が決定した予算が適正に執行されたのかどうかを慎重に審査しました。

審査の結果、全会計決算中、一般会計と国民健康保険特別

会計については賛成多数により、その他の介護保険、下水道、個別排水、食肉センター、後期高齢者医療、大学の6特別会計と病院、水道の2事業会計は全会一致で認定されました。

審査結果は本会議で報告され、各会計決算は原案のとおり可決されました。



東川孝義委員長(左)と山崎真由美副委員長(右)

決算審査特別委員会での質疑の一部を掲載します

市税徴収事業費

- 問** クレジットカード収納の利用件数が横ばいである。今後の決済方法についての考えは。
- 答** 手数料が納税者負担となっていることが伸び悩んでいる原因だが、コロナ禍における対面以外での唯一の納付方法であり、今年度は件数が伸びている。今後とも収納方法の拡大を検討していく。

ずっと住まいる応援事業費

- 問** 住宅改修などへの助成の利用状況について、どのようにとらえているか。
- 答** 事業初年度の交付決定額は2,995万円で、波及効果は3億円以上である。事業に対して好意的な意見が多い一方で、助成率を引き上げてほしいなどの要望があるので、事業開始4年目に検証する。

砺波保育所運営事業費

- 問** 砺波保育所の閉所などもあり、待機児童の増加が懸念されるが、今後の考えは。
- 答** 今年度、保育所の基本設計を行っている。特に3歳未満の待機児童が多いことから、3歳未満児に対する保育の充実を図れる規模の施設を目指しており、待機児童解消に向けて取り組む。

病院事業会計

- 問** 東病院の病床利用率が落ち込んでいるが、施設の老朽化も関係しているのではないか。
- 答** 昨年度の稼働率70.1%では、経営的に厳しいが、今年8月で約88%まで回復している。公共施設等総合管理計画の個別施設計画の策定に当たり、老朽化の調査を行うので、その際に細部を確認する。

総括質疑



新型コロナの影響と財政動向

市政クラブ 山田典幸 委員

コロナ禍による財政への影響

問 当該年度後半に当たる本年2月以降、新型コロナの影響が拡大が続いているが、財政運営への影響と今後の対応は。

答 コロナ対策は、国の臨時交付金を財源としている部分が多く、今のところ大きな影響はないが、今後の感染状況によっては新たな施策展開も必要となる。一層の事業の選択と集中に取り組み対応する。

今後の財政動向について

問 一般会計歳入の約4割を占める地方交付税の動向は。

答 現在実施されている国勢調査で人口減が予想されることに加え、国の新型コロナ対策に伴う財政支出が今後の地方交付税に大きな影響を与える可能性があり、楽観的な推計はできないと考えている。

問 約93億円となった基金の今後の運用の考え方は。

答 公共施設の老朽化への対応など、今後一層基金に依存



経営健全化に向けて計画的な施設整備を

した財政運営を想定しており、目的に沿った効果的な事業展開を検討し、有効活用を図る。

公社の経営健全化に向けて

問 名寄振興公社の経営健全化に向けた、市としての今後の施設整備に対する考え方は。

答 温浴施設の改修は、公社の経営改善にプラスの面があり、市民要望も高い。新年度の予算協議の中で、先行改修が可能かどうか十分議論する。



効果的な財政投資も必要

市民ネット 佐藤靖 委員

基金の有効活用を

問 全国の多くの自治体がコロナ禍で、今後の財政悪化を懸念しているが、名寄市は国からの臨時交付金で賄われているとしている。基金残高は、目的基金を含め当該年度末で96億5151万9千円。これに北海道市町村備荒資金組合納付金が普通、超過を含め16億2225万9千円。都合112億7377万8千円の基金を有しているが、今こそ市内経済の復活、市民の期待に応える施策展開のため、積極的に財源投入をすべきではないか。

答 今後、市債の償還、人口減、合併算定替特例措置の終了に伴う交付税の減、公共施設の老朽化などの課題を抱えており、財政規律に基づき対応している。しかし、コロナ禍で民間が落ち込んでいる状況があれば、支えていくのは原則。しっかりと分析し、効

果的な施策を打つ。

市立病院への繰り入れ増を

問 市立病院への繰り入れルールである交付税プラス1億円および人材確保分は、旧病院庁舎時代に決めたもの。キャッシュフローの赤字もあり、病院規模も倍増しており、見直して、病院経営の安定を目指すべきではないか。

答 現行ルールは変更せず、病院資金を注視しながら臨時的な手法で対応することを検討する。



赤字状況にあるとともに、規模も倍増しているが、繰り入れルールは変わらない市立総合病院

総務文教常任委員会活動報告

第7回委員会を7月22日に開催し、教育委員会からは、名寄市内高等学校の在り方について、北海道教育委員会から令和5年度の配置計画案が示されるとともに、検討会議でも一定の方向性が出されたことから、北海道教育委員会に要望事項を提出した旨、説明を受けました。

第8回委員会を8月20日に開催し、名寄市立大学からは大学院設置の検討状況、教育体制・就職活動・学生募集、



地域住民に即した公共交通の課題を調査

学生支援給付金の給付状況、学生支援緊急給付金の申請状況について説明を受けました。

教育委員会からは新型コロナウイルス感染症対策関連事業および名寄市内高等学校魅力化推進委員会設置経費などの補正予算、名寄市図書館条例となよる市立天文台条例の一部改正に係るパブリックコメント手続の実施について説明を受けました。

総合政策部からは、道北圏域ロジスティックス総合研究協議会負担金などの補正予算サマージャンプ大会の開催中止、なよろ憲法ハーフマラソン開催について説明を受けました。

総務部からは、町内会長と行政の懇談会、国勢調査、市外学生を持つ保護者等応援プログラム付き商品券の交付状況について説明を受けたほか、光ファイバ整備事業、新編名寄市史編さん体制、豪雨被災地支援、「避難所運営訓練」職員研修会、北海道シェイクア

ウト訓練、防災体制構築訓練について説明を受けました。

所管事務調査

「一般住民・高齢者・障がい者・交通弱者の移動手段の確保と公共交通の課題について」では、コミュニティバス東西まわりに乗車後、コストと収入、年間乗降者数、智慧文医療バスと中名寄地区の状況、利用者の声、停留所移設の法的根拠、車両更新に係る支援制度「地域公共交通確保事業」、イオン徳田バスの運行状況について説明を受けました。



コミュニティバス東西まわりに乗車し、運行状況を調査

議会日誌 8~10月

- 8/3 経済建設常任委員会
- 8/7 議会運営委員会
令和2年第2回臨時会
- 8/12 議会運営委員会
- 8/17 市民福祉常任委員会
- 8/20 総務文教常任委員会
- 8/21 経済建設常任委員会
- 8/24 各会派代表者会議

- 8/28 議会運営委員会
議会報特別委員会
- 8/31 令和2年第3回定例会開会
決算審査特別委員会
議員協議会
- 9/14 議会運営委員会
- 9/23 決算審査特別委員会
(~25日、28日)
- 9/24 議会運営委員会
- 9/28 令和2年第3回定例会閉会
議員協議会

- 10/7 市民福祉常任委員会
上川北部市町村議会議長会
- 10/13 議会運営委員会
- 10/15 議会報特別委員会
- 10/28 各会派代表者会議
総務文教常任委員会
- 10/29 議会運営委員会
議員研修会
経済建設常任委員会

市民福祉常任委員会活動報告

令和元年度市税収納状況

8月17日開催の第7回委員会では、市民部から令和元年度市税収納状況などが報告されました。「現年課税分の市税収入額が31億円を超え、平成22年度以来の高い水準で、他市との比較でも収納率は高い。名寄市税条例の一部改正では、令和3年4月1日から鉱泉浴場施設で、入湯税を徴収。危険家屋等除去補助金では、国土交通省の補助を活用し、市民生活に危険を及ぼす空き家を除去し、周辺環境に及ぼしている悪影響を解消するため補助金を交付する。子ども・女性SOS対応では、『子ども・女性SOSの車』と表記のマグネットを公用車などに掲示する」との説明のほか、共同飲料水供給施設等事業費補助金（智南水道組合）、共同墓について説明を受け、質疑を行いました。

新型コロナウイルス感染症対策

健康福祉部からは、新型コ

ロナウイルス感染症対策、保育所整備事業、第3回定例会提案予定の主な補正予算案について説明を受け、質疑を行いました。

市立総合病院からは、令和2年度市立総合病院第1四半期の収支、新型コロナウイルス感染症対策関連について説明を受け、質疑を行いました。



冬期に向け発熱外来を設置し感染対策強化

委員会テーマの勉強会

委員会のテーマである「高齢化社会における健康寿命の延伸について」、サブテーマ「フレイルを予防して健康寿命の延伸を実現」について、

7月27日に勉強会を開催し、フレイルについて認識を深め、課題を共有しました。

具体的には、「名寄市の高齢者人口、要支援・要介護者などの推移」、「一般介護予防事業、認知症総合支援事業、高齢者福祉サービス事業などのフレイル予防に関する施策・事業の実施状況」、「町内会ネットワーク事業などの社会福祉協議会の取り組み」について、健康福祉部から説明を受けました。

今後は町内会連合会との意見交換会を予定していますが、テーマの調査研究については、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮しながら進め方を判断していきます。



委員会テーマを勉強しました

市民の声を市政に生かします!! 議会を傍聴しませんか!

定例会は3月・6月・9月・12月の年4回、また臨時会も必要に応じて開催されます。

- ◇議場での音声を鮮明に聴くため、携帯型受信機を用意しています。
- ◇傍聴する際には、新型コロナウイルス感染症対策として、マスクを着用するとともに、間隔を空けて着席していただくなどのご協力をお願いします。
- ◇本会議の開催日など、詳しくは議会事務局（☎01654-3-2111）へお問い合わせください。



経済建設常任委員会活動報告

8月3日に第7回委員会を開催し、所管事項について報告を受けました。

経済部からは、新型コロナウイルス感染症に関する経済対策の実施状況について報告を受け、事業継続支援給付金などの中企業応援給付金などの申請、給付状況や5月24日販売の「飲食店限定なよろ地域商品券」と7月19日販売の「なよろ地域商品券」の販売実績について説明を受けました。また第2回臨時会に



㈱森臥のワイナリーを視察

提出予定の一般会計補正予算（第6号）として、新型コロナウイルス感染症の経済対策にかかわる追加補正について説明を受けたほか、なよろ産業まつりの中止に伴う代替企画について説明を受けました。建設水道部からは、一般会計補正予算（第6号）として、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用した、「サンピラーパーク森の休暇村」コテージ5棟の空調設備設置と、センターハウス、コテージ5棟のWiFi環境の整備について説明を受けました。

8月21日の第8回委員会では、経済部から有害鳥獣対策事業の実施状況について、「人・農地プラン」見直しの取り組み状況について、新型コロナウイルス感染症に関する経済対策として行う「なよろ地域商品券」の追加販売などについて、第3回定例会に提出予定の一般会計補正予算（第7号）について説明を受

けました。

建設水道部からは、名寄市手数料徴収条例の一部改正について、一般会計補正予算（第7号）について、下水道事業会計補正予算（第1号）について説明を受けました。

また午後からは、農作物の生育状況の説明を受けた後、市内弥生地区の㈱森臥のワイナリー施設、豊栄西12条仲通道路改良舗装事業、中名寄地区にて建設中の哺育・育成センター建設現場の状況などを確認するため、現地視察を行いました。それぞれ担当者から詳細な説明を受けました。



豊栄西12条仲通道路改良舗装事業の現場を視察

林活議連冬囲い

森林・林業・林産業活性化推進名寄市議会議員連盟（全議員加入）では、8月26日、健康の森に植樹している桜の幼木の冬囲い作業を行いました。「冬囲い」とは言い、残暑の厳しい中での作業であり、今回は、幼木の周囲に3本の棒を立て、先端を紐で結び、骨組を作るにとどめました。例年この時期に行なっている作業ですが、自然の厳しさからか、枯れて本数が少なくなってきたことが気掛かりです。酷寒の冬を耐え抜き、いつか可憐な花に出会えることを願いつつ、今年も無事に作業を終えました。



雪の重みや寒さから桜を守る

議会運営委員会
活動報告

令和2年第3回定例会の日程、議事運営などを協議するため、8月7日から10月29日までの間、委員会を7回開催しました。

8月7日の委員会では、第2回臨時会の日程および議事運営について確認しました。

8月28日の委員会では、会期を8月31日から9月28日までの29日間とすること、一般質問は16日から18日の3日間とし、12名の議員が登壇することを確認しました。また定例会初日の上程議案は、名寄市職員の特務勤務手当に関する条例の一部改正についてなど17件と報告1件で、議案第8号令和元年度名寄市一般会計決算のほか、7特別会計決算と2事業会計決算の認定を全議員で構成する決算審査特別委員会に付託し、審査することとしました。

9月24日の委員会では、定例会最終日の追加議案、名寄市税条例の一部改正についてほか4件の審議を行なうことを確認しました。

議会改革について

現在、議会運営委員会では、議会改革に取り組んでいます。メインテーマは「市民に信頼される議会運営を目指して」、サブタイトルとして「市民の負託に応え、市政の発展を目指す」としています。

具体的には①行政への監視機能と委員会活動の強化、②議会審議の活性化、③市民への積極的な情報公開と説明責任の遂行に区分し、協議を行っていきます。

議会改革の優先検討項目である①次期議員定数の考え方（議員報酬も含む）では、18歳以上の市民2千人（無作為抽出）を対象に、10月1日から20日までを調査期間とし、「名寄市議会に関する市民アンケート」を実施しましたので、市民の皆さんからいただいたご意見などを参考に協議を重ね、結論を導きます。②効率的な議会運営のためのタブレット導入に向けた調査研究では、議会運営委員会内に検討部会を設置し、調査研究を行なっています。

議員協議会

8月31日に開かれた議員協議会では、名寄市社会福祉事業団の経営状況について報告を受けました。決算報告では、当期資金収支は約2350万円の黒字を計上しました。繰越金とあわせた支払資金残高は約2億2100万円になり、経営の健全性が一定程度保たれているとの報告がありました。事業報告では、3月末時点の市特別養護老人ホームの入所者数で、清峰園が98人（定員100人）、しらかばハイツが64人（定員80人）との報告でした。新型コロナウイルス感染症防止のためのオンライン面会は、8月28日現在、清峰園で91件、しらかばハイツで35件の利用があったとの報告を受けました。質疑では、コロナ禍での業務負担が増える中、介護職員の確保について質し、「施設職員がどのような働いているのか興味深く思っている人もいますので、施設訪問が重要である。現状では施設内見学は難しいので、仕事内容や給与体系をオンラインで説明する機会を設けている。」との回答がありました。

9月28日に開かれた議員協議会では、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用した37事業について報告を受けました。事業は主に、市民生活に直接かわる事業や、市内の経済循環・市内企業への経済支援、感染拡大予防対策など、幅広く多岐にわたっています。国から市に交付される限度額7億4335万円に対し、総事業費は8億1795万円、超過分は基金などで補てんとするとの説明でした。

第2次名寄市行財政改革推進基本計画については、第2次総合計画や行政評価などと連動した成果指標を設定し、29の推進項目の説明がありました。質疑では、公表時期を第3回定例会に間に合うよう求めたのに対し、9月中旬には公表できる状況にはあつたが、定例会初日に間に合わせることが難しいとの回答でした。また人事評価制度の実施状況に対する質問には、制度設計の変更を実施するため、昨年度は行っていないが、職員意識や思考の変革に役立つとの回答でした。

☆ き ぽ う ☆



名寄市の方に恩返しを

さ さ き ゆう な
佐々木 優奈

私は岩手県で生まれ育ち、名寄市立大学に進学するため、初めて親元を離れ名寄市に来ました。知り合いがほとんどいない中での生活で、不安が大きかったことを覚えています。しかし名寄市での学校生活、アルバイトなどで多くの方に出会い、たくさんの経験をする中で名寄市民の方の温かさに触れることができました。不安しかなかった1年生の頃とは違い、多くの方に支えられ、とても楽しい生活を送ることができています。大学生生活で厳しいことももちろんありました。しかしそれを乗り越えられたのは、多くの方の支えがあったからです。そして4年生となった今、名寄市でお世話になった多くの方に少しでも恩返しをしたいと考えるようになりました。卒業後、大好きな名寄市に就職し、少しでも貢献できるようさらに学びを深めていきたいと思えます。



エア Airてっしが身近な存在に

いとう みわこ
伊藤 美和子

平成18年3月27日、新「名寄市」が誕生した日に産声を上げたコミュニティFM「Airてっし」は、来年3月には開局して15周年を迎えようとしています。これもひとえに、立ち上げに尽力・奔走された皆様、ラジオ局の基礎を一から作り上げてくれた局員・ボランティアの皆様、何よりラジオを聞き続けてくれた地域の皆様のおかげと感謝しております。

現在はインターネットを通じて、全国・全世界で、名寄のラジオを聞けるようになり、全国の皆さんに名寄を知っていただける機会ともなりましたが、何といたっても地元・名寄市の皆様に普段の暮らしにおいても、そして、いざという時にも地元の情報や命を守る情報を、早く正確に届ける放送局として、今後とも邁進して参ります。

「地元の人の声が聞こえる」コミュニティFMを今後ともよろしくお願ひいたします。

表紙の写真は「風連剣道スポーツ少年団」です。

風連剣道スポーツ少年団は年長児から高校生、そして大人も含めて一緒に稽古しています。武道を通じて、礼儀作法の大切さと忍耐強さを教わっていますが、現在は新型コロナウイルスの感染対策のため、マスクやガードをつけて稽古に励んでいます。大会に参加したり、レクリエーションをしたりと、楽しんで活動していますので、是非剣道を始めてみませんか？初心者大歓迎！



編集後記

10月の朝晩のひんやりとした空気は清々しさもありりますが、これから訪れる名寄の冬の厳しさを思うと、つい身震いしてしまいます。夏の間は素っ気なかった我が家の猫が、私の膝に乗って甘えてくるようになり、季節が冬に近づいていることを感じずにはいられません▼収束の見えないコロナ禍で、ストレスを溜めずに暮らしを楽しむ方法を考えながら、毎日を過ごしています。が、最近子どもたちとコミュニケーションアプリ「LINE」のやり取りを文章ではなく、音声ファイルで行うことにハマっています。通話とはまた違った面白さがあり、お勧めです▼今号では、第3回定例会での決算審査特別委員会の報告もあります。実行された予算を様々な視点から審査するもので、議会の重要な役割でもあります。▼議会報特別委員会では、市民にとってわかりやすく読みやすい「議会だより」を目指して研究を重ねて参ります。(五)

